

## 家康公 年表

天文11年 (1542)	<b>誕生</b> 三河岡崎城主 松平広忠の 長男として誕生(幼名は竹千代)
天文18年 (1549)	今川義元により 人質となり駿府へ
弘治元年 (1555)	元服し、松平元信と改める
永禄元年 (1558)	初陣(三河寺部城を攻める。 元康と改名)
永禄3年 (1560)	桶狭間の戦い(織田信長が 今川義元を奇襲し討ち取る)
永禄5年 (1562)	織田信長と同盟を結ぶ
永禄6年 (1563)	家康と改名
永禄11年 (1568)	遠江侵攻、引間城攻め、入城
元亀元年 (1570)	姉川の合戦(織田・徳川連合が 浅井・朝倉連合を破る)
元亀元年 (1570)	<b>29歳</b> 浜松城入城
元亀3年 (1572)	三方ヶ原の合戦 (武田信玄に大敗)
天正3年 (1575)	長篠・設楽原の戦い (武田軍を破る)
天正7年 (1579)	信長が家康に長男信康と、 正室築山御前の処罰を命じる (築山御前を遠州富塚で殺害。 信康は二侯城で切腹) 側室西郷の局が秀忠を産出
天正10年 (1582)	本能寺の変(信長が明智光秀の 謀反で殺害される)
天正12年 (1584)	小牧・長久手の戦い (家康対秀吉 講和)
天正14年 (1586)	<b>45歳</b> 浜松城から駿府城へ移る
天正18年 (1590)	秀吉に関東移封を 命じられ江戸入城
慶長5年 (1600)	関ヶ原の合戦(家康の東軍が石田三成 の西軍を破る)により事実上、天下統一
慶長8年 (1603)	征夷大将軍となる
慶長10年 (1605)	征夷大将軍を秀忠に譲る
慶長20年 (1615)	大阪夏の陣、大阪城落城、 豊臣家滅亡
元和2年 (1616)	<b>没年</b> 家康、駿府城で死去 享年75歳



徳川十六将因  
(徳川家康と三方原の合戦)

上部中央は家康公。左上より酒井忠次・井伊直政・本多忠勝・平岩親吉・鳥居元忠もしくは鳥居某・内藤正成・渡邊守綱・米津常春。右上より松平康忠もしくは家忠・榊原康政・大久保忠世・鳥居元忠もしくは鳥居某・大久保忠佐・高木清秀・蜂屋貞次・服部正成と推定されている。

### Check!

天正10年(1582)、武田勝頼を滅ぼした信長は武田狩りを始めるが、本能寺の変にて死去。その後、家康公は武田の残党狩りをせず、嫡流を江戸に置き、高家として優遇したと伝えられている。見せしめに懲らしめた者はいずれ敵となり、目の前に立ちちはだかる。有能な人材は仲間として活躍してもらおうとの考えだ。こうして家康公は武田家臣団からの信頼も得て、戦国最強とされる赤備えを取り込んでいったのだ。

信長や秀吉の行いを見直し、家臣を大事にしながら天下統一へと進んでいく。

家康公は、物事をよく考え、慎重に行動する実直な性格だったと言える

PICK UP!  
浜松に残る  
側室の足跡

側室「お万の方」が  
住んでいた  
中村家住宅



永禄11年(1568)、家康公が遠江に入国したとき、中村家18代正吉は徳川につかえ、今切軍船兵糧奉行や代官をつとめていた。こうした関係から正室・築山御前を恐れた家康公の側室・お万の方は、浜松城でなく中村家の屋敷を借り、第2子である於義丸を産出。その時の後産を埋めた「胞衣塚(えなづか)」が現存している。お万の方は長身で美しく、書に優れ、信仰心の厚い才女だったと言われている。  
■浜松市西区雄踏町宇布見4912-1

側室の中には、鷹狩にも参加し、戦場にも共する堅固な才女もいたと伝えられている。また家康公は子どもを多く望んでいたため、出産経験のある未亡人を積極的に選び、11男5女をもうけている。男子たちは有力な大名家として幕府の藩屏(はんぺい)となり将軍家を支えたのだった。厳しい戦国時代を勝ち抜き、長い徳川の時代を築いた背景には、多くの強き女性と子孫の力も大きく関わっていたと言える。

側室「阿茶の局」が  
住んでいた  
旧鈴木家屋敷跡



鈴木家は江戸時代にわたって古礼社庄屋の地位にあり、最も高い格式を持つとされている。家康公は鈴木家に側室・阿茶の局を預けており、鷹狩りの際、頻りに立ち寄ったそう。阿茶の局は才色兼備であり、戦場にも同伴。関ヶ原の戦いでは小早川秀秋の調略に一役買ひ、大阪冬の陣では対豊臣家との和睦交渉にあたったという。まさに家康公にとって縁の下力持ちな存在であったと言える。  
■浜松市東区中郡町980番地(※現在は立ち入りできません)

## Q エピソードから読み解く!家康公の気質とは?

我もし浜松を去らば  
刀を踏み折りて武士を止むべし

三方ヶ原の合戦を目前にしていた頃、武田軍に圧迫され続けていた家康公は、信長から岡崎への退去を命じられた。しかし家康公は「我もし浜松を去らば刀を踏み折りて武士を止むべし『武徳編年集成』」と断固拒否。信長に対して初めて反抗し、意地でも浜松に踏み止まると伝えられている。これほどまで浜松に対する想いは熱く、大切な場所だったと考えられる。そして三方ヶ原の合戦は誰もが予想できた結果となったが、浜松の領民たちは「見捨てずに守ってくれた。見所のある殿様だ」と感じたに違いない。領民たちの心をつかんだこと、そこに三方ヶ原の合戦の意義があるとも言える。

我が宝は、我のために  
命を投げ出す家臣なり

諸大名の前で様々な宝物を自慢する秀吉公に「お前の宝は何か」と質問されたときの、家康公の答え。他の大名たちは所持品を述べたが、家康公は「私は三河の田舎者なので、秘蔵の宝はもっておりません。しかし自分のために、命を惜しまないものが5百騎ばかりおります。これが私の一番の宝です」と答えたと伝わる。人の上に立ちながらも決して慢心せず、家臣を大切にしてきたことが分かる。

## Q

家康公の妻子事情とは?

# 浜松時代の家康公を学ぶ

## Q 浜松時代に起きた、大きな苦難とは?

### 1 人生最大の負け戦、三方ヶ原の合戦

上洛を狙う武田信玄は二侯城を攻め落とすが、家康公のいる浜松城には見向きもせず、そのまま三方ヶ原を通過しようとしていた。当時、家康公は血気盛んな31歳。それを見逃すことができず、自ら攻め込んでいったという。3万人を率いる武田軍に対し、家康公の軍勢はわずか1万人に不足。たちまち敗軍となり、家康公は家臣のふりをして命からがら浜松城へ逃げ帰ったと言われている。



三方ヶ原の合戦

### 2 正室・築山御前と長男信康の死

築山御前と信康を同時に失ったことは、試練の中でも最も辛くてきこたつたと考えられる。築山御前は今川義元の妹の娘。家康公が今川家の人質であった頃に結婚し、長男信康が生まれた。しかし今川は織田に桶狭間で倒され、信康は信長の娘・徳姫と結婚する。築山御前はこの処遇が面白くなく、武田と内通し織田を倒そうとしているとの疑いがかけられた。信長は激怒し、築山御前とその子の信康までも殺害するよう家康公に命じた。信長に逆らえるわけもなく、家康公は徳川家繁栄のため二人の殺害を家臣に命じたと言われている。

### 3 絶体絶命の大ピンチから 脱出し、伊賀越え

織田信長が明智光秀によって自害に追い込まれた「本能寺の変」が起こると、信長と同盟を結んでいた家康公が狙われることに。その時、家康公は堺にいたが、供する者は井伊直政・本多忠勝・服部半蔵などわずか30人余り。明智軍に勝てるわけもなく、伊賀出身の服部半蔵の案内で伊賀を越え、命からがら領国へ戻ったと伝わる。家康公は九死に一生を得る危難に何度も直面しているが、この伊賀越えは『徳川実記』において「御生涯御難難の第一」と記されるほどの出来事であった。

## 家康公トリビア 家康公は名づけ名人?

武田軍から逃げ帰る道中の逸話がいっぱい!それが地名や名字となっている

地名 「小豆餅」と「銭取」

現在の「小豆餅」という地名は、逃げ帰る途中に家康公が茶屋で小豆餅を食べたとされる場所。この時、武田軍が追ってきたため、慌てた家康公はお金も払わずに逃げてしまう。茶屋の老婆は家康公を追いかけ、銭を徴収した場所が「銭取」という地名になった。家康公は武田軍からは逃げ切ったが、老婆からは逃げられなかったのである。



名字 「小粥」

逃げ隠れているうちに空腹になった家康公はある農家に飛び込み、老夫婦からお粥をたらふくごちそうになったそう。家康公は天下統一した後、お礼にと老夫婦に「小粥」の姓を与えたとされている。後にその家は庄屋を務め、家はますます繁栄。「丸に二引」の小粥の家紋は、家康公がお粥を食べた際、茶碗の上に箸を置いた形だと伝えられている。

名字 「白尾」

家康公が浜松八幡宮の洞窟に一時身を隠したとき、家康公の乗馬の白い尾が洞窟の外に出ていた。それに気づいた付近の農民が家康公にそれを教えたため、尾を隠して上手く逃れられたという。後に家康公はこの農民にお礼として「白尾」という名字を授けたそう。



浜松で過ごした家康公の青年期は戦い続き。苦悩が絶えない試練の時代だった。そんな中、家康公は人心を掌握し、人を動かすために必要なことを学びとり、強い精神力・柔軟性・判断力・政治力を培ってきた。まさに浜松での経験こそが、徳川300年という異例の安定時代を誕生させたと言える。では、実際に家康公は浜松で何を学んだのか、若かりし家康公はどんな人物だったのか、歴史や逸話から紐解いていこう。

### 徳川家康公 3D肖像

若く猛々しい30歳前後の家康公を等身大で再現。

